

キウイフルーツ根腐病と防除対策

キウイフルーツ根腐病感染樹では、主に梅雨明け後に樹全体が立枯症状を呈す。病原菌として*Pythium*属菌2種が同定されているが、根腐病に登録のある農薬はない。そのため、治療が難しく、改植が必要になることがあるが、農薬で菌密度を低下させることができないことから、根腐病菌に耐性があるシマサルナシ台木の利用は有効な防除対策である。園地での被害拡大を防ぐには、暗きょ、明きょの設置などにより、土壌の水分環境を改善することが重要。

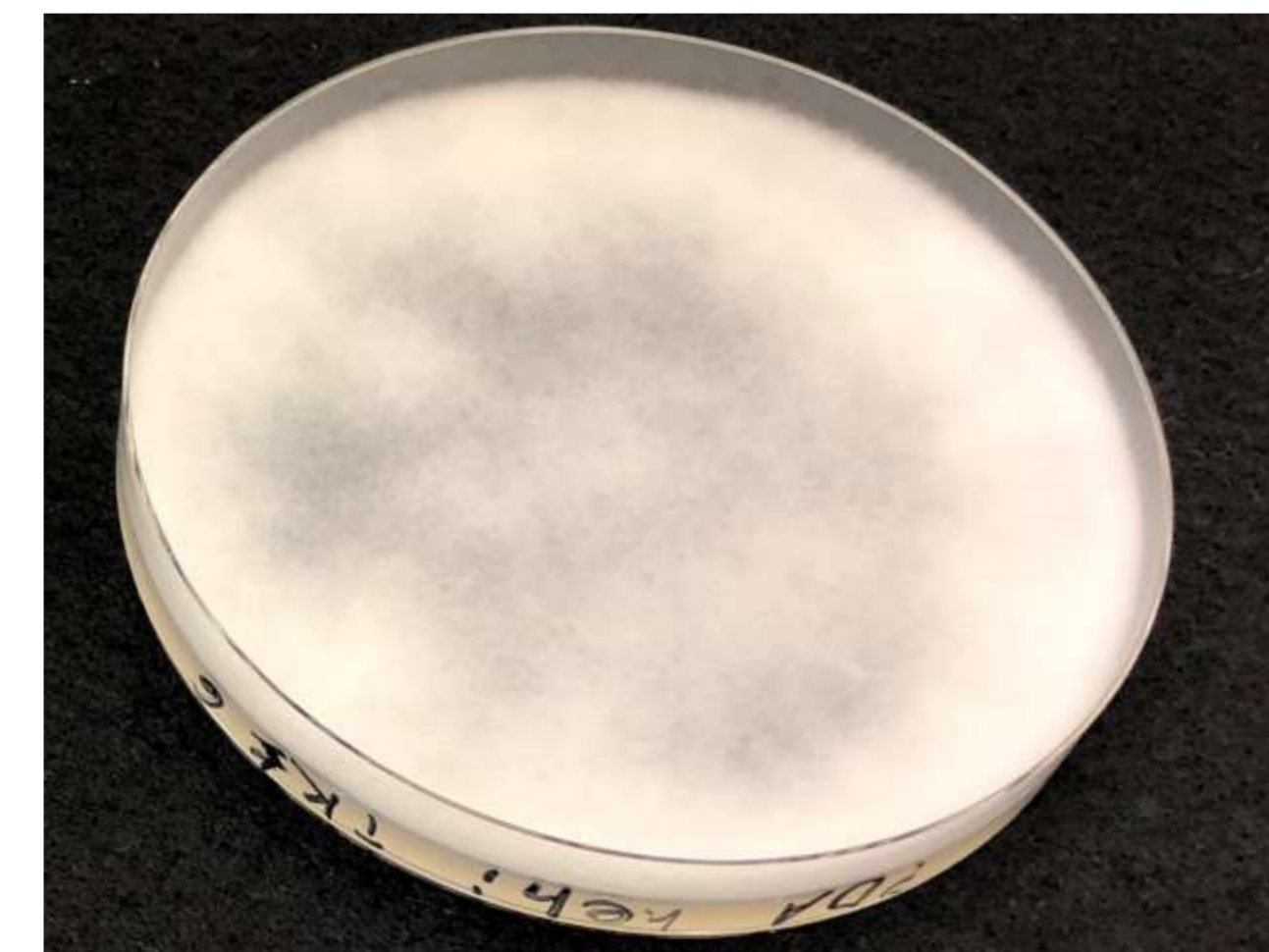
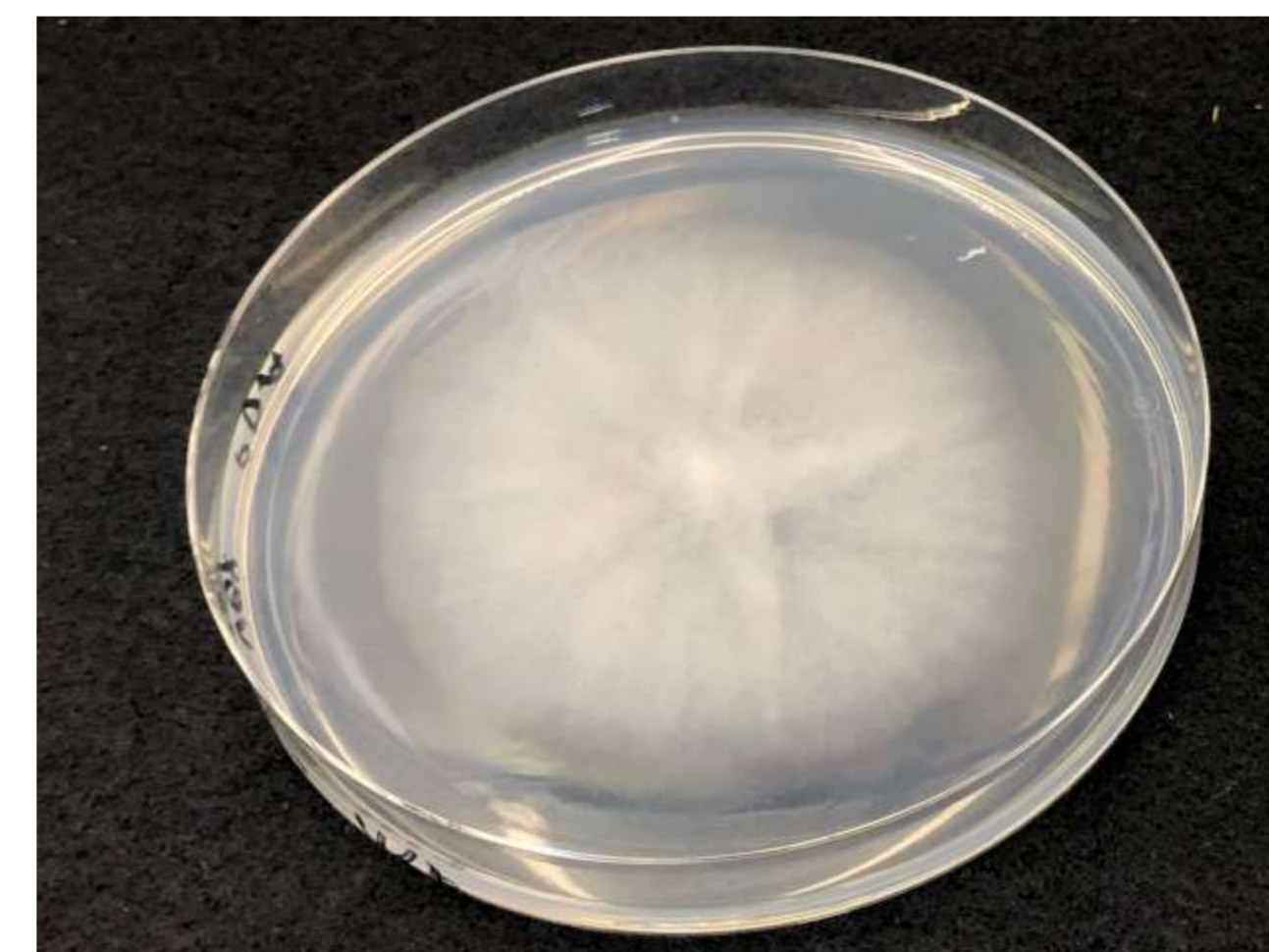


排水性の悪い水田転換園などで多い傾向

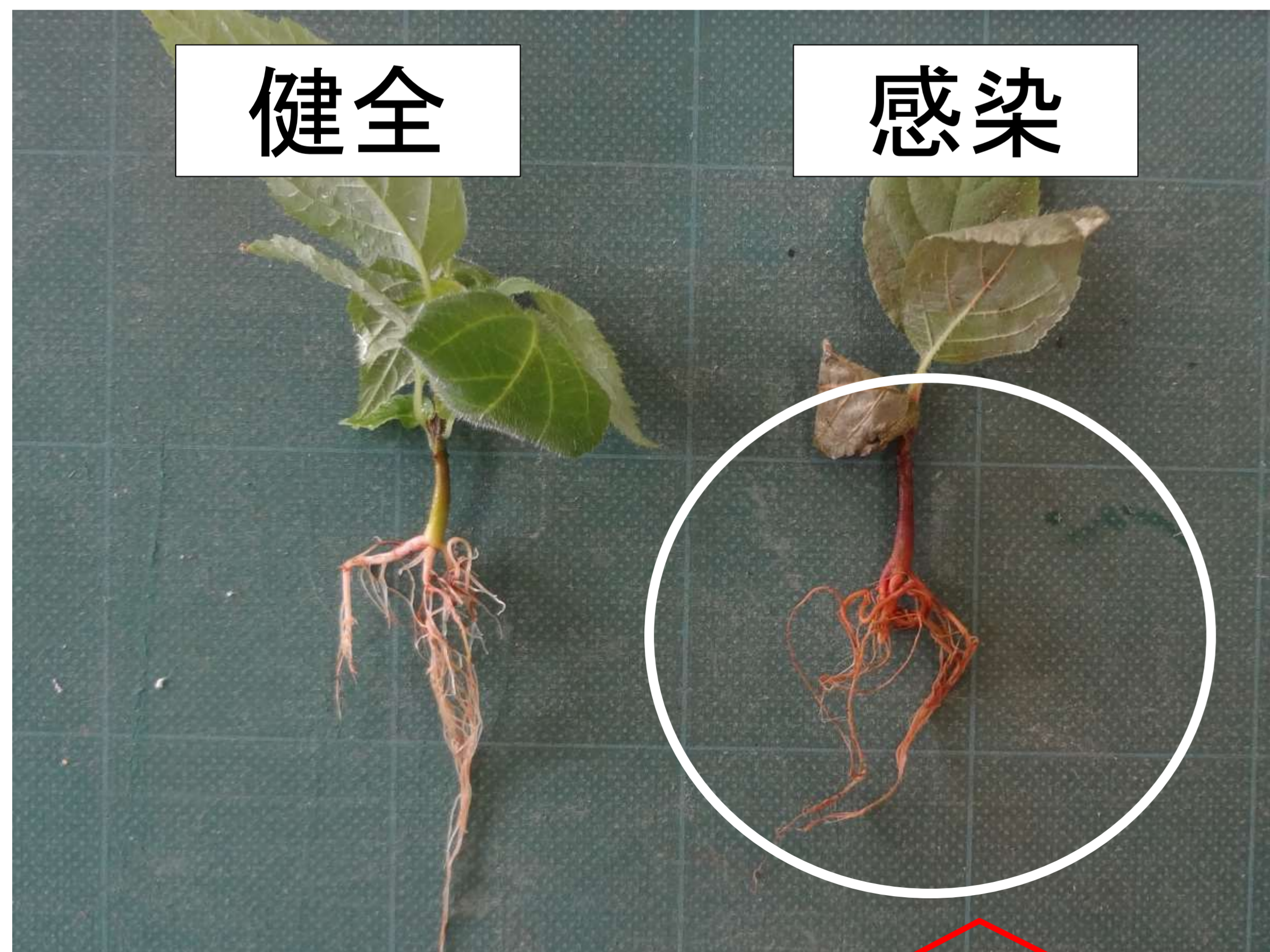
病原菌:ピシウム
⇒多犯性で普遍的に生息

P.vexans

P.helicoides



PDA培地で25°C、3日間培養



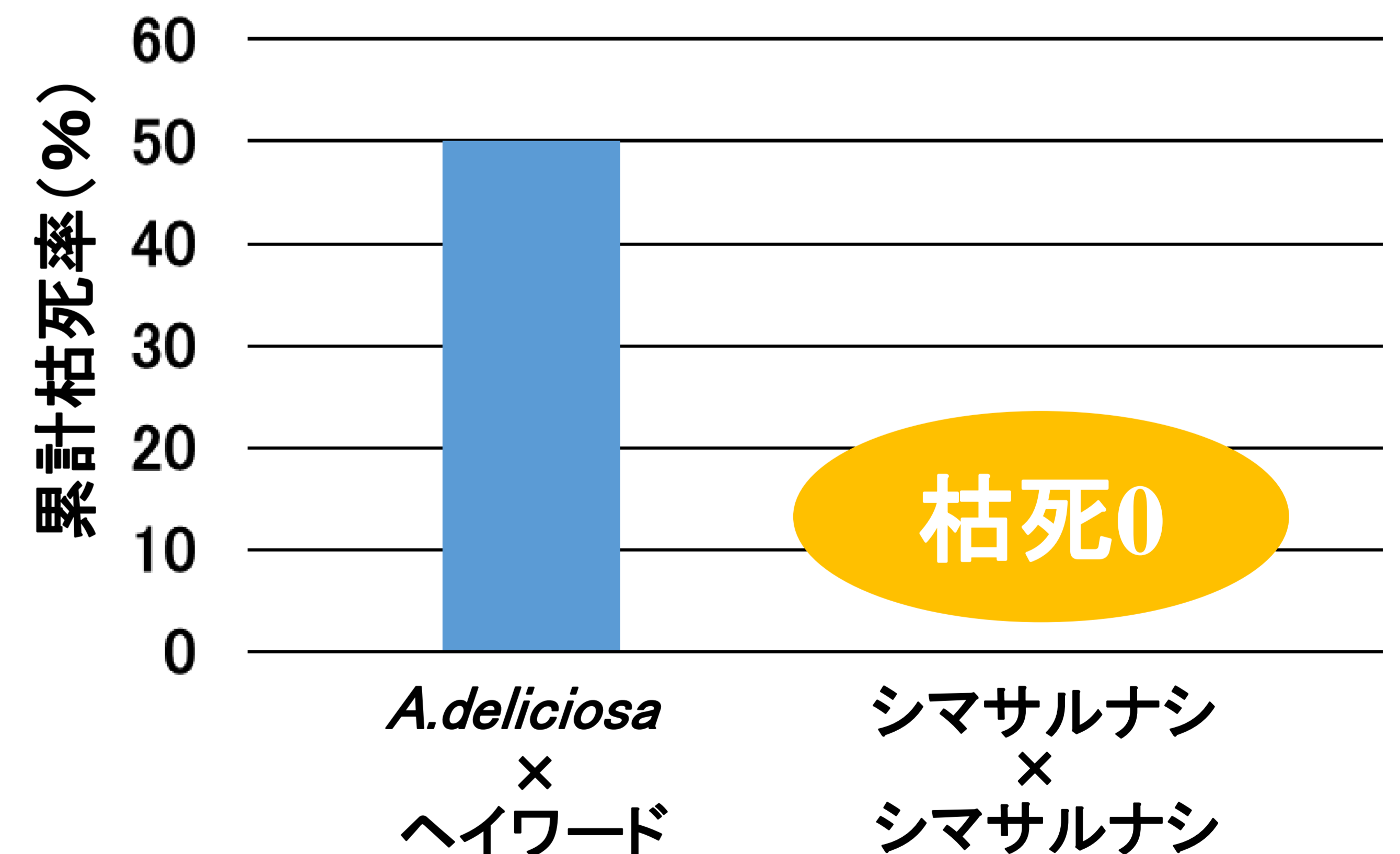
地際部が褐変し、根が腐敗

○根腐病抵抗性の評価 (*P.helicoides*)

①根木質層での菌体重量 (ng/mgFW)

マタタビ属種	接種部位からの距離	
	~2cm	~4cm
キウイフルーツ	5,706	41
シマサルナシ	18	未検出

②根腐病菌接種による枯死率



シマサルナシに根腐れ病菌を感染させても腐敗の進展が遅く、菌量が少ない。枯死率も低い。

シマサルナシ台木の耐湿性はハイワード実生台木と同程度のため、排水対策は必要。